

表3—6 「市長への手紙」投稿内容別の順位

年度	1位	2位	3位	4位	5位
45	道路舗装 6.0	下水道 4.9	道路改良 2.6	市営バス 2.5	公園 2.2
46	道路舗装 7.1	下水道 6.1	都計街路 4.4	道路改良 3.3	公園 3.2
47	下水道 6.9	公園 5.9	道路舗装 5.3	市営バス 4.0	公害 2.7
48	消費経済 5.0	老人福祉 4.7	学校施設 4.6	公園 2.2	下水道 1.9
49	宅地造成 39.1	老人福祉 6.0	図書館 5.8	公園 2.2	市営バス 1.4
50	図書館 5.9	老人福祉 3.9	学校施設 2.3	保育所 2.0	市営バス 1.9
51	学校施設 5.1	公園 4.7	保育所 4.0	老人福祉 2.9	バス地下鉄 2.7
52	公園 4.5	老人福祉 3.2	バス地下鉄 2.1	下水道 1.5	道路補修 0.9

市民局相談部調べ

表3—7 市民意識調査に表われた市民の市政要望の推移

調査時	1位	2位	3位	4位	5位
49. 4	福祉・医療 42.0	物価流通策 19.8	生活環境整備 18.4	土地・住宅 12.2	都市造り 4.5
50. 7	物価消費者 27.3	病院医療 25.5	公害防止 22.6	生活道路 17.2	下水道・河川 16.7
51. 11	病院医療 29.0	保育所・福祉 20.7	緑・公園 19.5	交通の便 18.9	下水道 18.8
52. 10	物価消費者 27.0	病院・医療 21.5	下水道 19.1	道路整備 17.9	緑・公園 17.8
53. 10	物価消費者 27.2	病院・医療 26.6	下水道 20.5	老人福祉 19.8	車規制・交通安全 18.0

回答肢数：49年＝5項目，50年＝22項目，51年・52年＝12項目，53年＝28項目

市民の市政要望

●「物価」「医療」に強い要望

昭和四十年代のなかば頃まで、正確にいえば四六年度までは、「市長への手紙」で市民が市に要望してくるもの第一位は道路舗装であった。第二位以下にも下水道、道路補修など、都市の物的な面のもが多かった。だが四七年からあと、上位の順位は毎年めまぐるしく変わり、問題領域も福祉、図書館、下水道、学校施設、公園など、広い範囲に及んでいる（表3—6）。

これは「市長への手紙」で自分から市政に発言する市民の要望であって、手紙、相談室等の広聴手段を利用する市民は全市民の二～三割に限られることが、市民意識調査から明らかにになっている（五七頁・表3—11）。そこで市政に発言しない市民も含めて、全市民が抱えている要望を市民意識調査でみると、物価がいぜん大きな問題であるのを始め、病院・医療、下水道などが、この二年ほど上位を占めている（表3—7）。

市民の市政への要望の推移をもう少し詳しくみてみたい。

図3—10 市民の市政への評価と要望，3年間の推移（50年→53年）

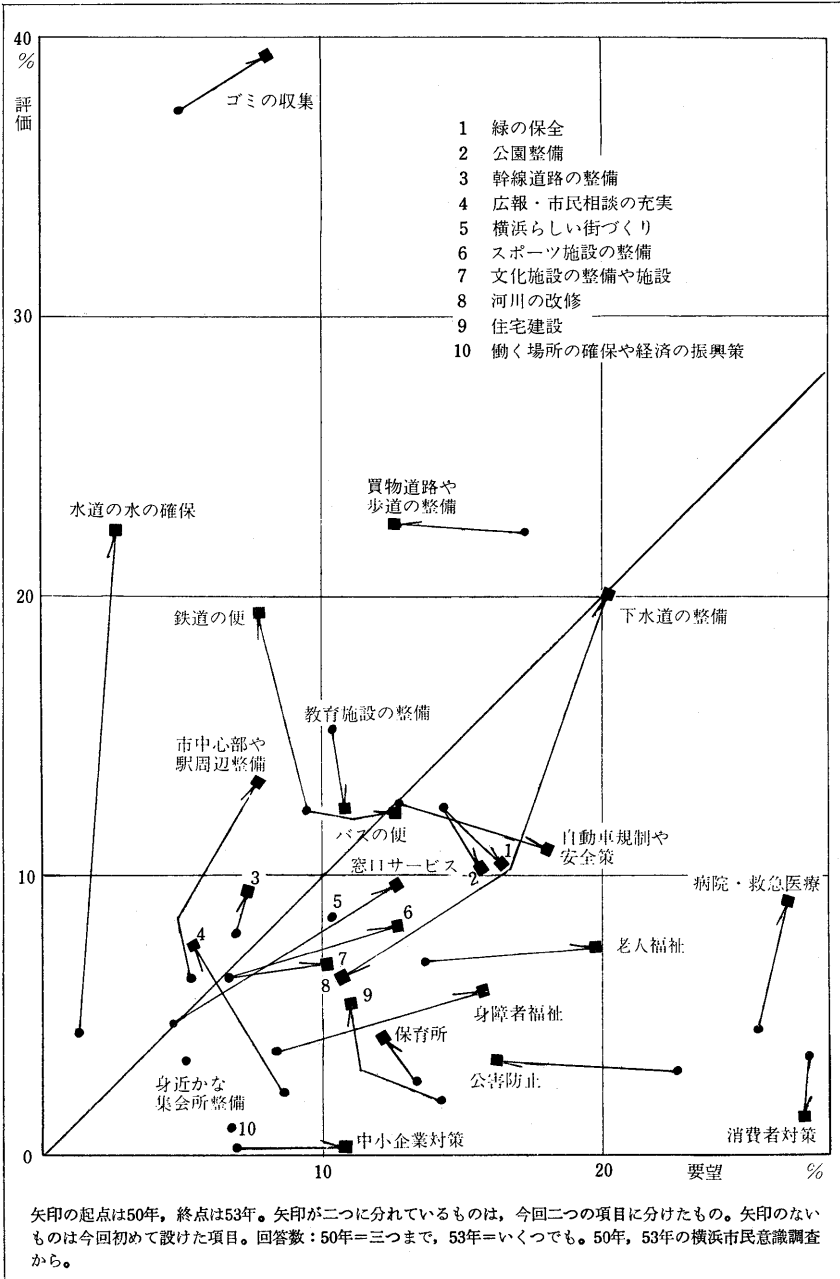


図3-10は、市民意識調査に表われた市民の市政への要望と評価が、五〇年秋から五三年秋にかけて、三年間でどのように変化したかを示したものだ。タテ軸に「最近よくなったもの」(評価)、ヨコ軸に「もっと力を入れてほしいもの」(要望)が示されている。

これによると、評価が高くて要望が低いのはゴミ収集、かなり評価が高くて要望の低いものに、水道、通勤・通学・買物道路や歩道の整備、鉄道・地下鉄の便などがある。その中では「水道の水の確保」の評価が大きく伸びているのが注目される。九州の水不足で横浜の水道が改めて見直されたのだろうか。

反対に、とくに要望が強くて評価の低いものは、「物価や消費者対策」「病院や救急医療対策」「老人福祉」などだ。「物価」はこの三年で評価が下り、「救急医療」は評価が上っている。「老人福祉」は評価は変わらず、要望が増えている。評価が高くて要望も強いものは「下水道」だ。そのほか、評価が高まったものに「市の中心部や駅周辺の整備」「窓口サービス」など、要望の増えたものに「身障者福祉」「窓口サービス」「スポーツ施設」「文化的な施設」「自動車規制や交通安全対策」「中小企業やそこで働

く人への対策」など、要望が減ったものに「公害対策」「買物道路や歩道」などがある。「緑」「公園」はどちらも評価が下り要望が増えている。

●若い男性に要望の強い「スポーツ施設」

五三年秋の調査に表われた市民の市政要望をいくつかの属性別にみると(図表は省略)、性・年齢別にみて、「スポーツ施設」は若い男性にとくに要望が強く、「横浜らしい都市づくり」は年齢を問わず女性より男性に要望されている。「身障者福祉」は若年者ほど、「老人福祉」は高齢者ほど、要望がやや多くなる傾向だ。

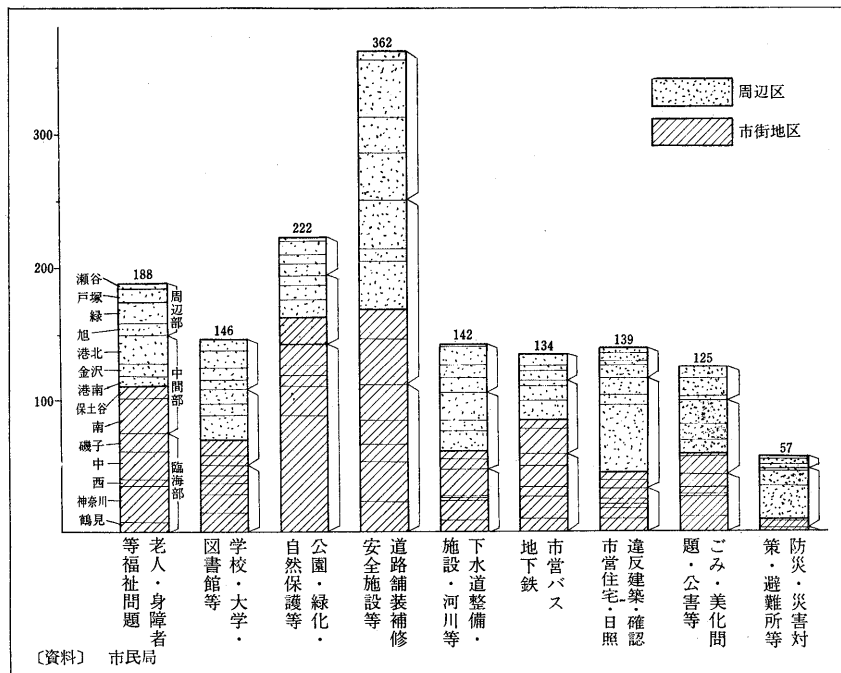
ライフステージ別にみたものでは、「公園整備」「病院・救急医療」「教育施設の整備」は、小中学生の親がいちばん強く要望している。「保育所」を強く要望しているのは第一子就学前の親だ。

職業別にみると、「幹線道路」は生産工程従事者、「中小企業やそこで働く人のための対策」「働く場所の確保や経済の振興」は自営業者、販売サービス従事者、学生などに要望が強い。

表3—8 市民意識調査に表われた市民の市政要望——地域別（53年10月）

	1位	2位	3位	4位	5位
臨海部	物価消費者 29.1	病院・医療 25.2	老人福祉 19.4	公害防止 19.0	下水道 16.7
中間部	物価消費者 27.1	(1位) 病院・医療 27.1	下水道 18.6	老人福祉 18.3	(4位) 公園 18.3
周辺部	病院・医療 27.2	物価消費者 25.7	下水道 25.1	老人福祉 21.6	交通安全 20.7

図3—11 市長への手紙の地域別（52年度）



●臨海部で「老人福祉」
 周辺部で「医療」
 五二年度の「市長への手紙」を大きく市街地区と周辺区に分けてみると（図3—11）、福祉問題や緑、バス・地下鉄は市街地区のほうが多く、建築関係は周辺区のほうが多い。道路舗装は上位五つからは姿を消したが、補修・舗装・安全施設など道路関係をひとまとめにすると、いぜん市民の要望には根強いものがあることがわかる。旭、緑、戸塚など市街化の激しかった区からの手紙が多いのをはじめ、市街地区、周辺区を問わず市民の関

心は高い。また道路・下水道問題が一・二位を占めているのは旭、磯子、港北、戸塚の四区である。

一方、五三年の市民意識調査に表われた要望を、臨海部、中間部、周辺部ごとに上位五つまでを掲げると、表3—8のようになる。四六頁の全市の要望と比べると、臨海部では「老人福祉」「公害防止」、中間部で「公園」、周辺部で「病院・医療」「交通安全」が、全市より順位が高くなっている。

地域社会への関心と活動

●三割が親密な近所づきあい

横浜は新しい住民が多くて地域社会があまり育っていないとよくいわれるが、実際にはどうか。

日常の近所づきあいで「あいさつぐらいいはする」人が三九%、「立ち話ぐらい」が二三%で、浅いつきあいの人が多い。その中で約三割の人が「気の合った人と親しく」(一七%)したり、「相談や助け合い」(二四%)というかなり親密な近所づきあいをしている(図3—12)。居住年数が長いほ

どつきあいは深く、また男性より女性のほうが、男性では高齢者ほどつきあいは深い、女性はあまり年齢差がない。地域別では周辺部より臨海部のほうが深い。

これはつきあいの程度を大づかみに答えてもらったものだが、もっと具体的にたずねると(図3—13)、あいさつは九割以上の人がしており、立ち話も半分ていどの人がしているが、これ以外のことになると、しているのは一〜三割ほどの人である。ライフステージ別では、「立ち話」「日用品の貸借り」「子供の世話」の三つは、子供ができた段階で急に増え、子供が成長するにつれて減っていくのが興味深い。病人の世話や葬式・祭りの世話などは子供が成長した段階の人のほうがよくやっている。

ほんとうはどういうつきあい方をしたいと思っているかという意識(図表は省略)は、「あいさつぐらい」一七%、「立ち話ぐらい」三〇%、「気の合った人と親しく」一九%、「お互いに助け合って」三二%と、現実のつきあいよりも積極的であり、性・年齢や居住年数による差はあまりない。そして希望と現実の関係をみると、希望よりも浅いつきあいの人がかなりおり、今後市民の定住化が進むにつれてつきあいが深まるかどうか、注目される。